

医療法人社団

## 中村レディースクリニック

(神戸市西区)

分娩と不妊治療を両立  
診療・接遇の両面で一流を目指す

「診療はもちろん、設備機器や食事、接遇、おもてなしのすべての面で一流のサービス提供を目指しています」と話す中村光彰院長

## 注目POINT!

## ① 妊婦や家族の要望に沿って出産をサポート

陣痛誘発剤など人為的な介入は極力避け、妊婦や家族の要望に応えられるようにサポート。4D超音波診断装置を導入し、医療サービスの向上にも努める。

## ② 患者の経済的負担を考慮した不妊治療

体外受精による妊娠率は全国平均を上回る。不妊治療の経済的負担を考慮し、1回当たり20万円台と低価格に設定。

## ③ 高い水準の患者サービスを展開

豊富なメニューを取り揃えた食事や各種講座、産後エステなど、さまざまな患者サービスに取り組み、「身内を通わせたい」と思われる産婦人科診療所を目指す。

医師1人で月30件の分娩と  
不妊症外来に対応

2011年3月に診療所と併設する自宅を含めて第三者継承し、全館リニューアルを行って開院した医療法人社団中村レディースクリニック(19床)。中村光彰院長は開業理由を次のように語る。

「これまで大病院や診療所などさまざまな医療機関で医師としての腕を磨いてきました。また、診療所の副院長や分院の院長を務め、理念とソロバンの重要性も学びました。そのうえで、やはり自分が理想とする診療所を持ちたいという思いが強くなり、ご縁も重なって当地で開業しました。診療はもちろんのこと、設備機器や食事、接遇、おもてなしのすべての面で一流のサービスを提供できるように、日々努めています」

同院では、開院からの2年間で500人以上の新生児が誕生。出産件数は多い月では40人、ここ1年間は月平均30人で推移している。開業当初は近隣には同院のほか産婦人科診療所がなかったが、2年の間に2施設が新規開業。しかし患者数は安定しているという。

「分娩の進行はなるべく自然の力を大切に、陣痛誘発剤など人為的な介入は極力避けています。妊婦さんやご家族のさまざまな要望に応えられるように、そして、生まれてくる尊い命に対して常に畏敬の念を忘れずに接するようにスタッフ一同心掛けています」と、中村院長はその思いを語る。また、いち早く最新鋭の4D超音波診断装置を導入し、妊娠10週目以降の妊婦健診時には無料で動画をDVDに録画して配布するなど、医療サービスの向上にも余念がない。

同院の医師は中村院長のみであるが、分娩や婦人科一般外来、がん検診、更年期外来に加えて、不妊症外来にも対応している。常勤の胚培養士が1人いるものの、医師1人体制で分娩と不妊症外来の両方を手がけているのは神戸市内では同院のみという。

開院から今年5月までの体外受精(胚移植)による妊娠率は34.2%(79件中27件)で、全国平均の28.5%(日本産科婦人科学会2010年報告を上回っている。体外受精の費用も1回当たり20万円台と、近隣の医療機関に比べて低価格設定だ。中村院長は、「不

付き添いの家族も宿泊できる個室



ゆったりと食事を楽しめるレストラン



産婦人科の厨房業務を専門とする会社のシェフがつくる食事は高い評価を得ている



4D超音波診断装置が設置された診察室



スタッフ一丸となって患者の希望に沿った出産をサポート

→培養室。全国平均を上回る体外受精による妊娠率を支える



医療法人社団 中村レディースクリニック  
神戸市西区持子 3-60-1  
TEL: 078-925-4103  
URL: <http://www.nakamura-ladies.com/>  
診療科目: 産科、婦人科



多目的ホール（通称オレンジホール）では、マタニティ・ヨガやベビーマッサージ、母親教室など出産・育児のための多彩な講座を開催

## 食事へのこだわりとおもてなしの心での接遇

妊治療は当事者にとって大変なストレスのうえ、自由診療である体外受精は費用面の負担も大きい。少しでも患者さんの負担軽減になればという思いです」と説明する。

患者向けサービスにも強いこだわりを見せる。特に食事は、産婦人科の厨房業務を専門とする会社に委託し、同社のシェフと栄養管理スタッフが院内で調理。和洋中偏ることなく豊富なメニューを取り揃え、患者を飽きさせない工夫を凝らしている。

「患者さんが一番楽しみにしているのが食事です。開院時にレストランを設けて、ゆったりと食事をとっていただいています。退院時のアンケート結果を見ても、食事の項目は高評価を得ています」（中村院長）

設置し、マタニティ・ヨガやベビーマッサージ、母親教室など、さまざまな出産・育児のための講座を開催している。また、院内にエステルームを完備し、出産から退院までの間、専任のエステティシャンによる癒しのひと時を過ごしてもらっている。

さらに、メディカルアロマセラピストの資格を持つ看護師が中心となって、スタッフ同士でアロマセラピーの勉強会を開き、院内環境の向上にも努めるなど、アメニティー、サービス面での改善・向上にも心血を注いでいる。

中村院長は診療所を経営するうえで、①プロフェッショナル、②安全に、③真心、④公平さ、⑤スピード感、⑥丁寧さ、⑦オリジナリティー、⑧楽しく、の8つの方針を掲げスタッフとも共有している。

「地域で欠かせない産婦人科診療所になるには、常に患者満足度の向上に努める必要があります。経営方針の8項目すべてにおいて高いレベルが要求されます。おもてなしの心で接遇し、『身内を通わせない』と思ってもらえるよう、より良い医療サービスを追求していきます」

「玄関脇には多目的ホール（通称オレンジホール）を